



2021年3月期第2四半期決算報告

2021年3月期業績見通し



〒 5 9 8 5

2020年11月26日

©SUNCALL CORPORATION All Right Reserved.

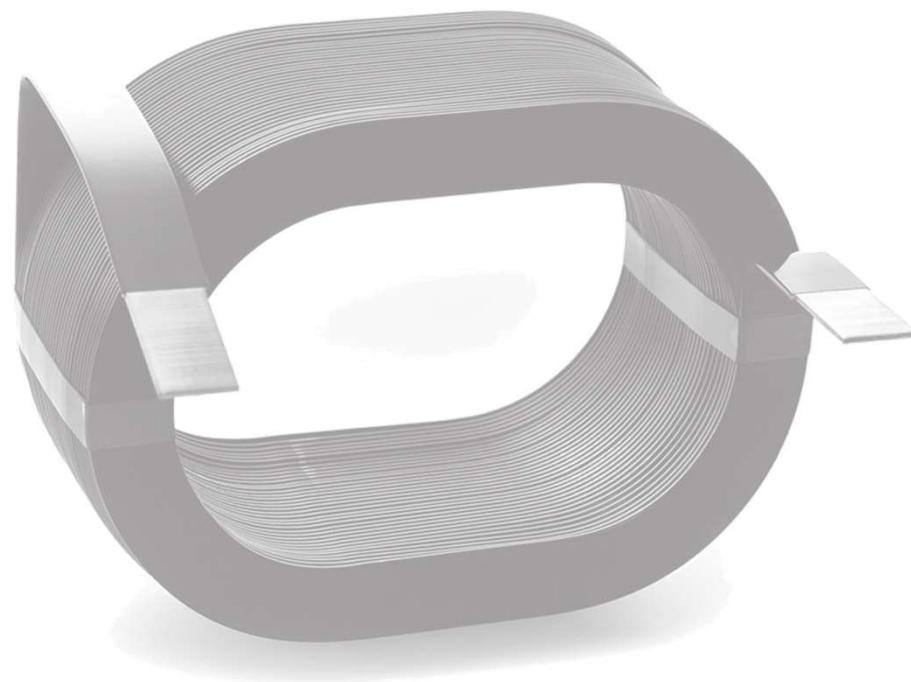
1.会社概要

2.2021年3月期第2四半期決算概要

3.2021年3月期業績見通し

4.中長期の成長戦略

会社概要



会社概要

社名	: サンコール株式会社 SUNCALL CORPORATION
設立	: 1943年6月
資本金	: 48億8百万円
本社	: 京都市右京区梅津西浦町14番地
証券取引所	: 東京証券取引所 第一部
従業員数	: 2,325名 (連結) 633名 (単体)
主要株主	: 伊藤忠商事(株) 26.6% 日本マスタートラスト信託銀行(株) (退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口) 15.8%

(2020年9月末時点)

A partial view of a grey metal gear with teeth, located in the top-left corner of the slide.

技術をより良い世界のために

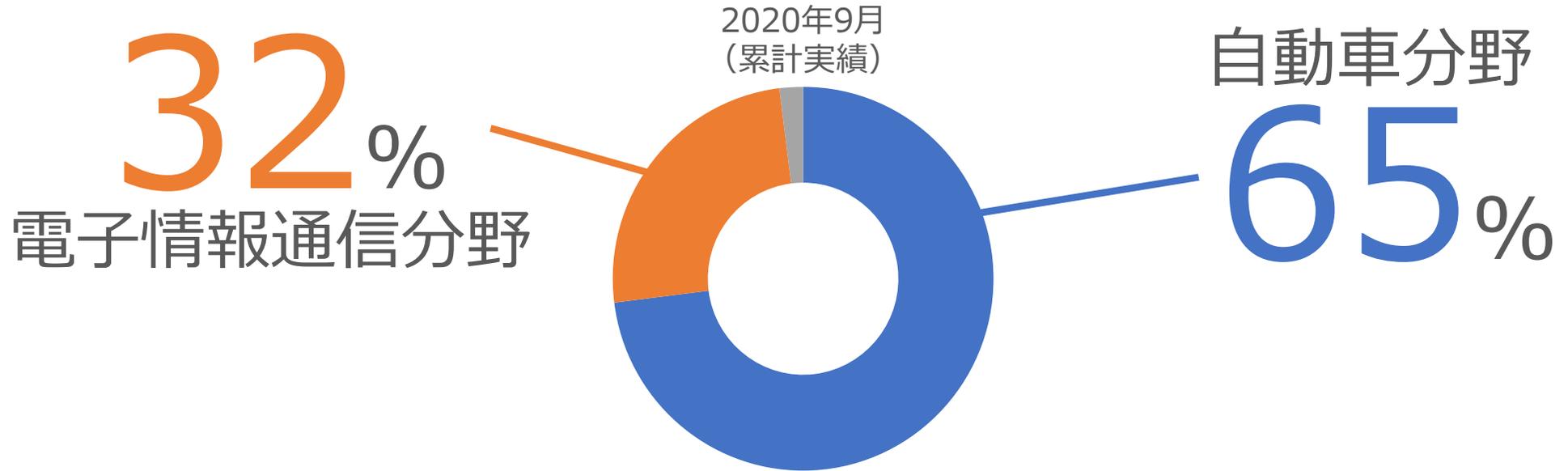
経営理念

技翔創変

サンコールは『技翔創変』という経営理念の基で企業の飛躍に邁進しております。

- ✓ 『**技翔**』とは、**技術を飛翔させていくこと**
特異な技術無くして、SUNCALLは存在し得ない
- ✓ 『**創変**』とは、**変化を自分で作りだして行くこと**
世の中の変化についていくのではなく、変化をリードし、創造していく

事業分野 / 主要製品



HDD部品



HDD
サスペンション

プリンター部品



ローラー



トクリミッター
スプリングクラッチ

通信関連部品



光コネクタ



光アダプタ

精密機能材料



弁バネ用線



精密异形線

精密機能部品



弁バネ



リングギア



ぜんまいバネ



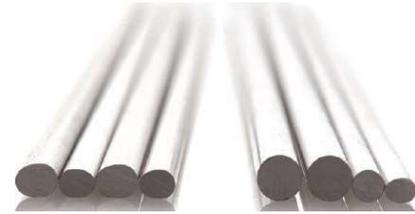
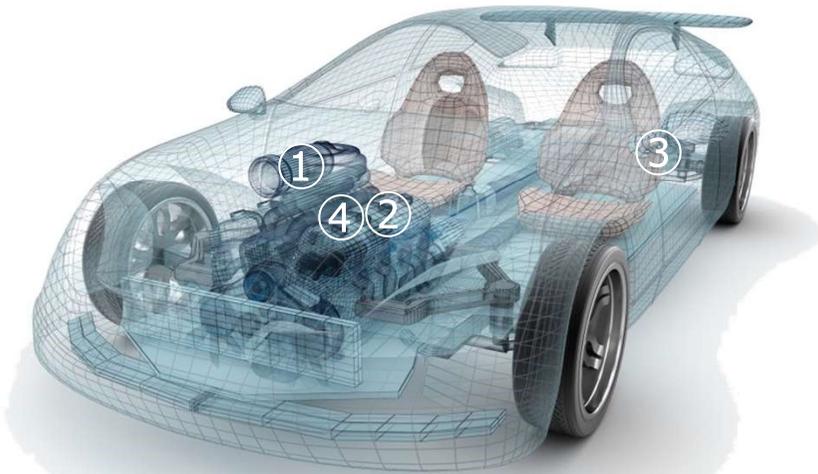
リアクターコイル



モーターコア部品

多様な用途に使用される当社精密部品-自動車分野

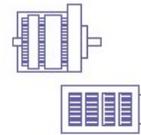
材料から加工まで一貫生産



一貫生産を支える当社の芯。
数々の独自技術に展開するコア
事業。安心・安全・高品質で新
規領域へ

材料関連事業・弁ばね用銅線 精密異形線

モーター・電気部品



ユニットの形状に合わせて個別に
設計。これからの配線の主役。

④バスバー



電流を流しながら、電圧を測定で
きるという機能を盛り込んだ、バス
バー一体型センサー。リチウムイオ
ン電池のような大電流にも対応。

④シャントonバスバー



過電流を検知すると通電部を破
壊瞬断する次世代センサー

④フューズセンサー



モーターの芯を構成する部品。当
社は自動で一貫生産し、高い生
産性を実現。

④モーターコア・ステーターコア



エンジン部品

①弁ばね



国内シェアトップクラス。材料から
加工まで一貫生産により、高品質、
1億回の伸縮にも耐えられる高耐
久性を実現。



ミッション部品

②リングギア・ドライブプレート



国内シェアトップクラス。独自の金
属加工技術で高精度を実現。

安全部品



③シートベルト用ゼンマイばね



材料から製造するため、精密なト
ルクの調節が行え、快適性を実現。

多様な用途に使用される当社精密部品-電子情報通信分野

今後進展する5G・IOTや増加する在宅勤務での需要拡大が期待される 製品群のキーデバイス

サスペンション



HDD



HDD磁気ヘッドを、数十ナノメートル単位で位置決めする極限レベルの精度要求に対応



ローラー



トルクリミッター
スプリングクラッチ



長尺・軽量・高精度シャフト供給
によりW/Wトップシェア



データセンター



パソコン



光コネクタ



光アダプタ

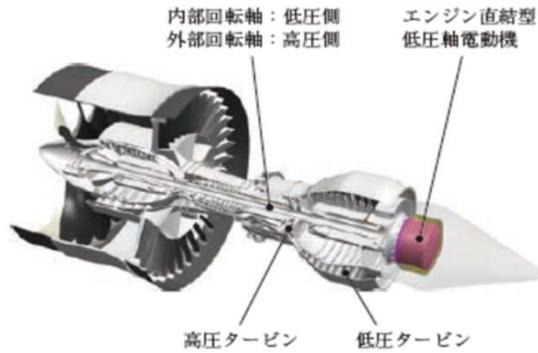


プリンター



次世代事業の開発

インテリジェンセンサー



電気自動車
ハイブリッド自動車



開発分野

環境・エネルギー

医療・介護機器



サンコールの強み

蓄積されたノウハウと技術による実績と信頼

高度な精密塑性加工技術

金型 内製

- 引抜き加工用金型（ダイス）の内製化により、より複雑な形状の精密異形製品を創出。
- お客様の要求精度を満たしながら短納期化を実現。

品質 保証

- 高精度部品のものでづくりで得た計測ノウハウを応用展開。
- 独自のセンサー応用技術を活かしたインライン計測システムと制御技術を融合。品質・生産性を飛躍的に向上。

材料から製品までの一貫生産体制

材料 開発

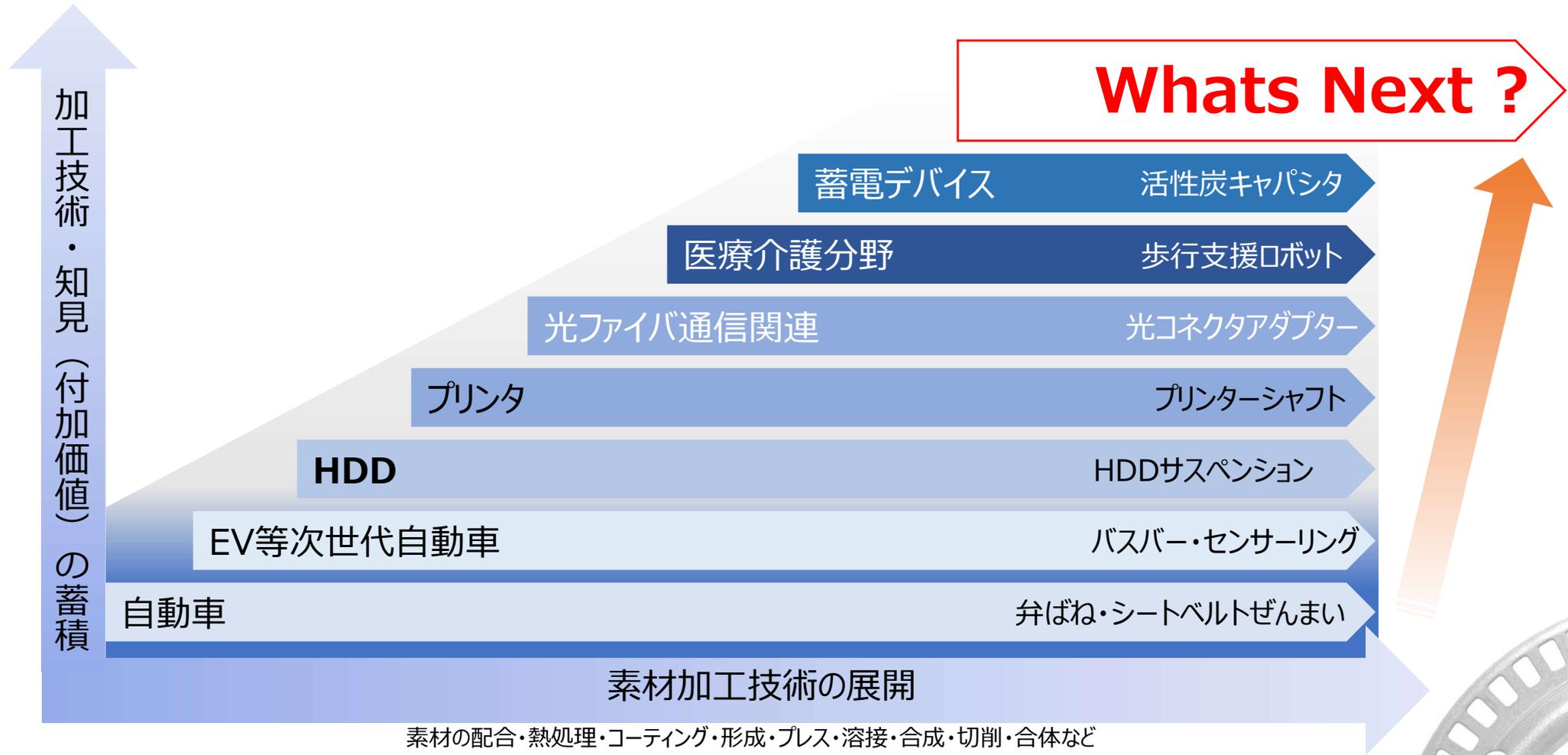
- 鋼材の成分設計から関与し、お客様の要求仕様を満たす高応力や高耐久性に優れた高強度材料を独自に開発。

表面 処理技術

- 窒化処理や多段ショット等の表面処理技術を駆使し、高い疲労強度を実現。

サンコールの強み

事業発展の歴史 精密塑性加工技術で精密部品を次々に創出



サンコールの強み

主要製品の開発の経緯・特徴・強み 1

自動車部品関連

コア事業 弁ばね

- 1943年航空機用弁ばね用鋼材製造を開始。
- 1952年トヨタ自動車等向けエンジン用弁ばねの納入開始。
- 線材の形状、仕様、素材配合から大手顧客と共同開発。自社で加工、熱処理まで一貫生産により、開発スピードが圧倒的に早い。
- 大手自動車メーカーのTier1としての信頼と実績。
- エンジンが高出力、高性能化しており、信頼性、高耐久性で同業他社に対する、優位性を確保。
- WRC (World Rally Championship)参戦車に採用決定



EV 次世代自動車

- 当面、内燃機関搭載車の優位が続くと想定されるが、技術潮流を踏まえ、自動車電動化対応製品の開発を開始。
- 当社の強みである、素材配合からの一貫生産体制と、加工技術により、新製品を次々に上市。
- 伊藤忠商事の欧米ネットワークを活用、顧客の生産開発にスピーディーに対応するため海外拠点を活用。



サンコールの強み

主要製品の開発の経緯・特徴・強み 2

電子情報通信分野

HDD サスペンション

- 1985年HDDサスペンション事業に参入。サンコールが持つ板バネ技術を応用展開。
- ニアラインHDDでは、現在はグローバルメーカーで3社
- 5G・IOT等の進展により、データセンター需要は旺盛。データセンター向けニアラインHDDの需要拡大を見込み、積極的先行投資。



歩行支援 ロボット 医療介護分野

- 京都大学等と研究開発開始。
- 2019年3月「KAI-R」上市。2020年3月「Orthobot」上市。
- 現在リース販売開始。国内数か所のリハビリテーション施設で導入実績あり。
- 自社開発活性炭キャパシタ（竹炭）の歩行支援ロボットへの展開。



国内・海外拠点

国内14拠点

本社	京都府京都市
生産拠点	
本社工場	京都府京都市
豊田工場	愛知県豊田市
広瀬工場	愛知県豊田市
国内子会社	
サンコールエンジニアリング株式会社	山梨県南アルプス市
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市
営業拠点	
東京支店	神奈川県横浜市
名古屋支店	愛知県豊田市
西日本支店	京都府京都市
上田営業所	長野県上田市
北関東営業所	栃木県宇都宮市
浜松営業所	静岡県浜松市
近畿営業所	京都府京都市
西日本営業所	広島県広島市

海外7カ国15拠点

国	地域	出資比率	生産品目
アメリカ	インディアナ州	100%	弁ばね、リングギアほか
	サウスカロライナ州	100%	光通信部品（販売拠点）
	テキサス州	100%	
メキシコ	アグアスカリエンテ州	100%	弁ばね用材料、リングギア
	アグアスカリエンテ州	50%	シートベルト用ぜんまいばね
中国	広州	100%	弁ばね、リングギアほか
	広州	100%	弁ばね用材料（販売拠点）
	佛山	25%	弁ばね用材料
	天津	100%	リングギア
	深圳	100%	プリンター用ローラー、 光通信部品ほか
	香港	100%	
タイ	チョンブリ県	100%	弁ばね、リングギア シートベルト用ぜんまいばね プリンター用ローラーほか
ベトナム	ハノイ	100%	プリンター用ローラーほか
韓国	梁山	49%	シートベルト用ぜんまいばね材料
フィリピン	マニラ	100%	HDD用サスペンション（駐在員事務所）

2021年3月期第2四半期決算概要



2021年3月期 第2四半期決算のポイント

- 売上高 16,837百万円（前年同期比▲19.9%）
- 営業損失▲1,305百万円（前年同期から▲1,763百万円悪化）

新型コロナウイルス感染症の拡大で、大幅な減収減益だが、
7月以降は会社計画を上回って推移

新型コロナウイルス感染症の影響

- * 日本、中国、アジア地域は1Qを底に、2Q売上高は回復傾向
- * 北米は決算ずれで2Q影響も、7月以降は回復傾向
- * 国内メーカーの生産体制は回復傾向

自動車分野

* 自動車関連：中国は2月、その他の地域は4月を底に生産販売は回復傾向が続く

電子情報通信分野

* HDD用サスペンション：データセンター投資増に伴う需要は高水準に推移
⇒⇒1Qはフィリピン拠点封鎖され、顧客への出荷停滞が起こったが、2Qから挽回中

* プリンター関連：オフィス向けプリンター需要減が影響し減少も、新規需要可能性あり。

2021年3月期 第2四半期 決算概要

POINT

- 売上高 新型コロナウイルス感染症の拡大で、前年同期比19.9%減収
(但し、8/6公表上期計画対比では2.7%増加)
- 営業利益 大幅減収の影響で、営業損失(▲1,305百万円)を計上。
操業度に応じて、人件費(派遣費用・時間外)削減、
不急投資延期による減価償却費削減、など経費コントロールは実施。

(百万円)	2020年3月期 第2四半期		2021年3月期第2四半期				
	実績	上期計画	実績	前年同期比 増減額	前期同期比 増減率	上期計画比 増減額	上期計画比 増減率
売上高	21,007	16,400	16,837	▲4,170	▲19.9%	437	2.7%
営業利益	457	▲1,480	▲1,305	▲1,763	—	174	—
経常利益	491	▲1,560	▲1,360	▲1,851	—	199	—
四半期純利益	328	▲1,150	▲1,016	▲1,344	—	133	—
一株当たり利益	10.27円	▲36.38円	▲32.14円	▲42.41円	—	4.24円	—
平均為替レート	108.63円/ドル	107.81円/ドル	106.92円/ドル	—	—	—	—
	121.41円/ユーロ	119.24円/ユーロ	121.29円/ユーロ	—	—	—	—

2021年3月期第2四半期 製品区分別売上

POINT

■自動車分野

材料関連：自動車販売、生産低迷し前年同期比減収

自動車関連：新型コロナウイルス感染拡大で前年同期比減収

■電子情報通信分野

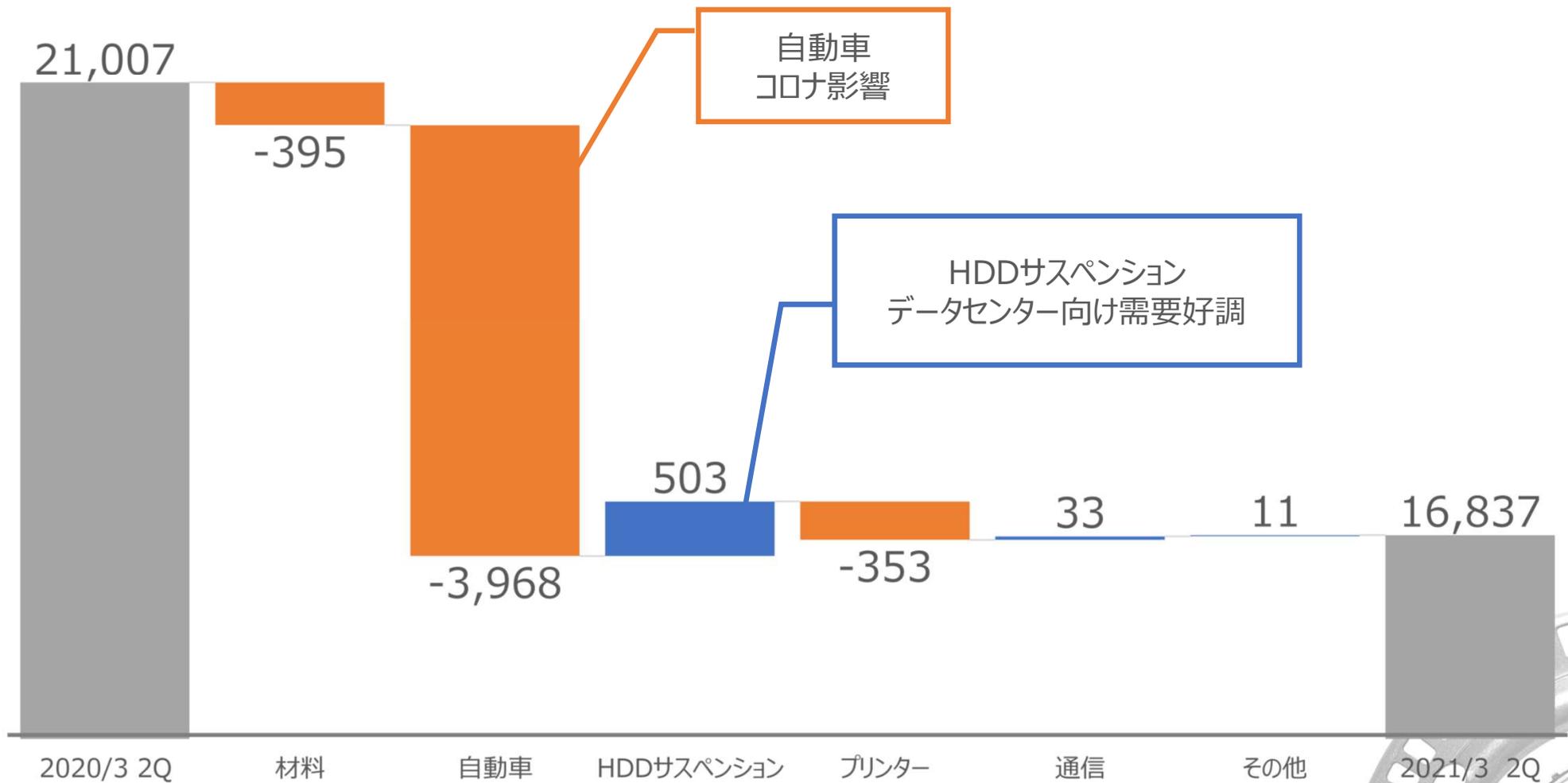
HDD用サスペンション：データセンター投資高水準で需要堅調、1Qはフィリピン拠点封鎖され、出荷減少したが2Q挽回し増収

(百万円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期第2四半期					
	実績(A)	上期計画	実績(B)	増減額B-A	前年同期比 増減率	上期計画比 (額)	上期計画比 (率)
売上高	21,007	16,400	16,837	▲4,170	▲19.9%	+437	2.7%
自動車分野	15,219	10,510	10,855	▲4,363	▲28.7%	+345	3.3%
材料	2,500	2,025	2,105	▲395	▲15.8%	+80	4.0%
自動車	12,718	8,485	8,749	▲3,968	▲31.2%	+264	3.1%
電子情報通信分野	5,266	5,380	5,448	181	3.5%	+68	1.3%
HDD用サスペンション	3,026	3,445	3,529	503	16.6%	+84	2.5%
プリンター	1,749	1,400	1,394	▲355	▲20.3%	▲5	▲0.4%
通信	490	535	524	33	6.9%	▲10	▲2.1%
その他	522	510	533	11	2.1%	+23	4.6%

製品区分別売上高要因分析（前年同期比）

製品区分別売上高

■ 増やす ■ 減らす ■ 合計(百万円)



2021年3月期 第2四半期 決算概要 (四半期)

POINT

Q1/Q2
比較

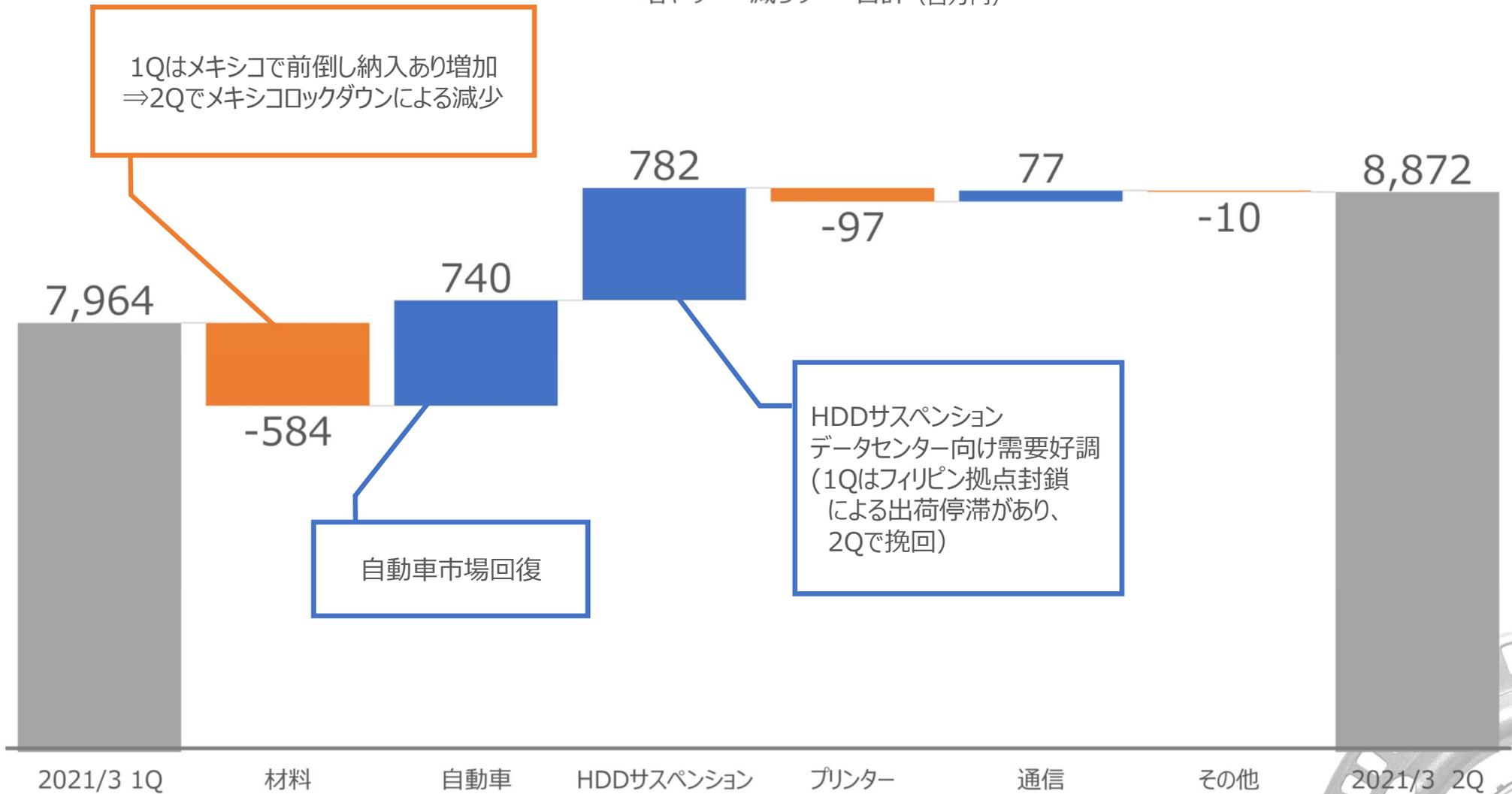
- 自動車関連は全体としては1Q対比+156百万円(2.9%増)に留まる。
 - ・決算ずれにより北米セグメント2Qはロックダウンした4-6月となり1Q対比▲1,090百万円
 - ・日本、中国、アジア地域は1Q対比で大きく改善
- 電子情報通信関連は主にHDD用サスペンションの出荷状況が回復1Q対比+762百万円

(百万円)	2020年3月期				2021年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	1Q比 増減額	1Q比 増減率
売上高	10,270	10,737	10,540	10,807	7,964	8,872	+908	+11.4%
営業利益	156	301	613	304	▲745	▲560	+185	—
経常利益	200	290	669	176	▲876	▲484	+392	—
当期純利益	120	208	873	▲78	▲680	▲336	+343	—
平均為替 レ－卜	109.90円/ドル	107.35円/ドル	108.76円/ドル	108.94円/ドル	107.62円/ドル	106.22円/ドル	—	—

製品区分別売上高要因分析（第1-第2四半期比）

製品区分別売上高

■ 増やす ■ 減らす ■ 合計（百万円）



2021年3月期第2四半期 地域別売上

POINT

- 日本 自動車分野：新型コロナウイルス感染拡大で大幅な減収
- 米国 自動車関連製品：新型コロナウイルス感染拡大で4-5月ロックダウンとなり生産販売停止
通信関連：光通信産業の設備投資減少で販売低調
- 中国 自動車分野：1-3月新型コロナウイルス感染拡大で大幅な減収となるも4月以降急回復
- フィリピン HDD用サスペンションが増収
- その他 新型コロナウイルス感染拡大でメキシコ、タイ自動車関連製品販売不振

(百万円)	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期第2四半期		
	実績	実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率
売上高	21,007	16,837	▲4,170	▲19.9%
日本	9,413	6,807	▲2,605	▲27.7%
米国	2,308	1,370	▲937	▲40.6%
中国	1,930	1,723	▲206	▲10.7%
フィリピン	3,043	3,159	+115	+3.8%
その他	4,311	3,775	▲536	▲12.4%

2021年3月期第2四半期 連結貸借対照表

POINT

新型コロナウイルス感染拡大の影響で縮小

- 固定資産増加 : 有形固定資産増加655百万円、投資有価証券653百万円
- 純資産減少 : 当期純利益▲1,016百万円、配当金▲351百万円、
為替換算調整勘定▲591百万円、投資有価証券評価差額金456百万円

(百万円)	2020年3月期末	2020年9月末	
	実績	実績	前期末比増減額
資 産 合 計	50,921	48,562	▲2,359
現 預 金	8,743	5,669	▲3,074
売 上 債 権	9,444	8,099	▲1,344
棚 卸 資 産	6,835	7,347	512
そ の 他 流 動 資 産	773	880	107
固 定 資 産	25,124	26,564	1,439
負 債 合 計	15,008	14,127	▲880
流 動 負 債	11,599	10,922	▲677
固 定 負 債	3,408	3,205	▲202
純 資 産 合 計	35,913	34,434	▲1,479
負 債 純 資 産 合 計	50,921	48,562	▲2,359

2021年3月期第2四半期 キャッシュ・フローの状況

POINT

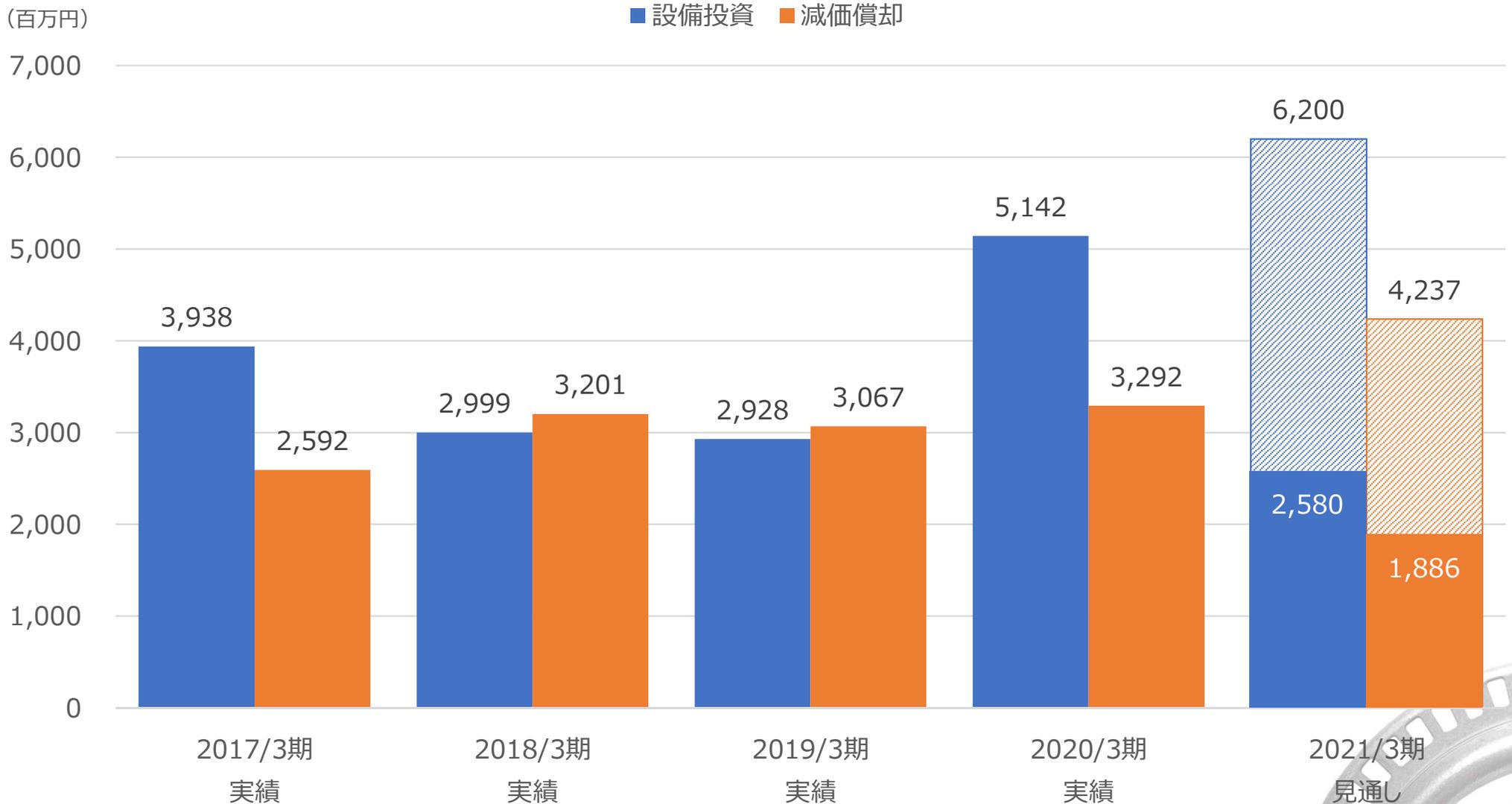
- 営業C/F 税引前利益が前年同期比▲1,887百万円減少
- 投資C/F 自動車関連やHDD用サスペンションを中心に設備投資を実施
- 財務C/F 米国・メキシコ子会社で短期・長期資金借入を実施

(百万円)	2020年3月期第2四半期	2021年3月期第2四半期	
	実績	実績	前年同期比増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,530	▲425	▲1,955
税引前当期純利益	512	▲1,374	▲1,887
売上債権・仕入債務増減	236	▲58	▲295
棚卸資産増減	▲210	▲747	▲536
減価償却費	1,484	1,886	401
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,406	▲2,747	▲341
有形固定資産取得	▲2,328	▲2,720	▲392
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲649	184	833
短期借入金増減	238	552	314
長期借入金増減	▲367	101	468
配当金支払	▲356	▲351	4
現金及び現金同等物の期末残高	10,138	5,669	▲4,468

2021年3月期 設備投資・減価償却の状況

POINT

- 上期は自動車分野・HDD用サスペンションを中心に2,580百万円の設備投資を実施
- 新製品・成長製品への投資継続



※上記設備投資額については完成ベース

2021年3月期通期業績見通し



2021年3月期 通期業績見通しのポイント

- 売上高 38,000百万円（前年同期比▲10.3%、▲4,354百万円）
- 営業損失▲1,900百万円（前年同期比▲3,275百万円）

新型コロナウイルスによる各国行動制限は解除方向であり、経済も回復方向だが、一部地域では感染拡大継続により行動制限が再び強化され、冬季を迎え予断を許さない状況

⇒8/6公表の業績見通しに対して上期業績は上振れも年間業績見通しは据置といたします。

自動車分野

（上期前年同期比▲28.7%⇒下期前年同期比▲6.3%・前年比▲17.6%）

- * 上期：新型コロナウイルス感染症の拡大で、新車生産、販売台数大幅減となり当社売上も大幅減収
- * 下期：各拠点とも回復を見込むが地域差あり（中国は想定以上、東南アジアは回復遅れが発生）

電子情報通信分野

（上期前年同期比3.5%⇒下期前年同期比25.8%・前年比+14.5%）

- * HDD用サスペンション：データセンター投資増で需要は高水準、新機種増対応で設備投資を促進、下期以降売上回復へ
- * プリンター関連：オフィス向けプリンター需要減が影響し減少を見込むが、下期は一部コンシューマー向けで特需予想

2021年3月期業績見通し * 下期回復見込だが年間予想据置

POINT

- 売上高 新型コロナウイルス感染症の拡大で、自動車関連売上は、減少。HDD用サスペンションは、前年比で、増加。
- 営業利益 主要製品の大幅減収に加え、**成長分野・次期主力製品への投資継続による減価償却費増加等**で、営業損失▲1,900百万円
- トピックス 自動車関連下期は前年比90%程度まで回復を見込むが、回復に地域差あり。**5G、IOT進展によるデータ量拡大でデータセンター需要は旺盛**
サスペンション・通信関連は下期回復基調を想定

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期				
	実績	上期実績	下期予想	年間予想	前年比 (額)	前年比 (率)
売上高	42,354	16,837	21,162	38,000	▲4,354	▲10.3%
営業利益	1,375	▲1,305	▲594	▲1,900	▲3,275	—
経常利益	1,336	▲1,360	▲469	▲1,830	▲3,166	—
当期純利益	1,123	▲1,016	▲263	▲1,280	▲2,403	—
一株当たり利益	35.33円	▲32.14円	▲8.36円	▲40.50円	▲75.83円	—
平均為替レート	108.74円/ドル	106.92円/ドル	106.00円/ドル	106.46円/ドル	—	—
	120.82円/ユーロ	121.29円/ユーロ	120.00円/ユーロ	120.65円/ユーロ	—	—

2021年3月期 製品区分別売上高見通し

POINT

■ 自動車分野

材料：中国・メキシコの弁ばね用鋼材好調で下期挽回

■ 電子情報通信分野

自動車：徐々に改善傾向だが、下期前年同期比▲9.3%（タイ子会社回復遅れ他）

■ その他

HDD用サスペンション：新規機種が増産ラインが完成し前年比で大幅増

プリンター関連の販売：家庭用で特需あるがオフィス用途の需要減が影響し減少

スマートフォン用部品：数量減等により大幅減

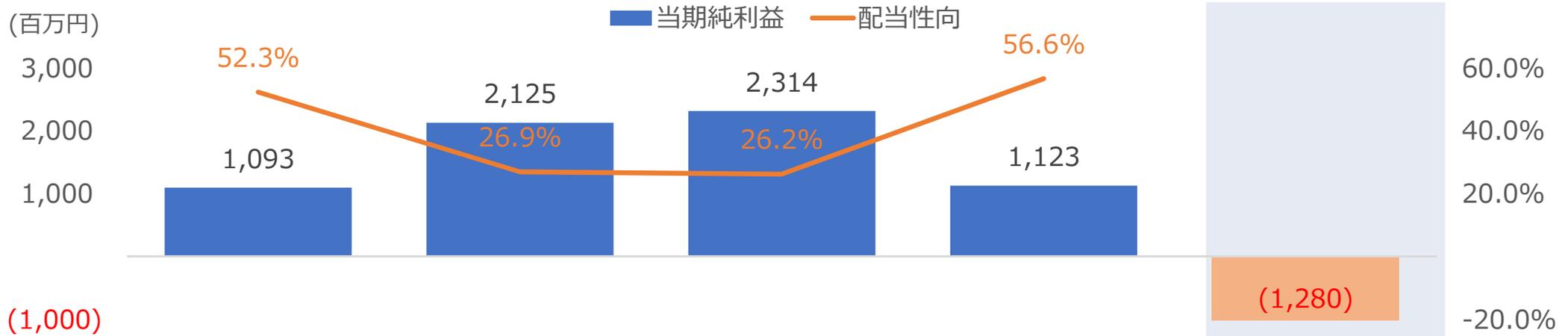
(百万円)	2020年3月期	2021年3月期			
	実績	通期予想	前年同期比 (率) (上期)	前年同期比 (率) (下期)	前期比 (率) (通期)
売上高	42,354	38,000	▲19.9%	▲0.9%	▲10.3%
自動車分野	30,249	24,940	▲28.7%	▲6.3%	▲17.6%
材料	5,057	4,875	▲15.8%	+8.3%	▲3.6%
自動車関連	25,192	20,065	▲31.2%	▲9.3%	▲20.4%
電子情報通信分野	10,396	11,900	+3.5%	+25.8%	+14.5%
HDD用サスペンション	6,092	7,875	+16.6%	+41.8%	+29.3%
プリンター	3,403	2,840	▲20.3%	▲12.6%	▲16.6%
通信	901	1,185	+6.9%	+60.7%	+31.5%
その他	1,708	1,160	+2.1%	▲47.2%	▲32.1%

2021年3月期 配当方針

2021/3月期期末配当

新型コロナウイルスの感染状況及び経済情勢から、引き続き未定とさせていただきます

配当方針	当期純利益が 25億円まで配当性向 30% 25億円超配当性向 40%	配当下限目標 20円
------	---	------------



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期(予)
中間配当	8円	8円	8円	9円	9円
期末配当	10円	10円	10円	11円	未定
年間配当合計	18円	18円	18円	20円	未定



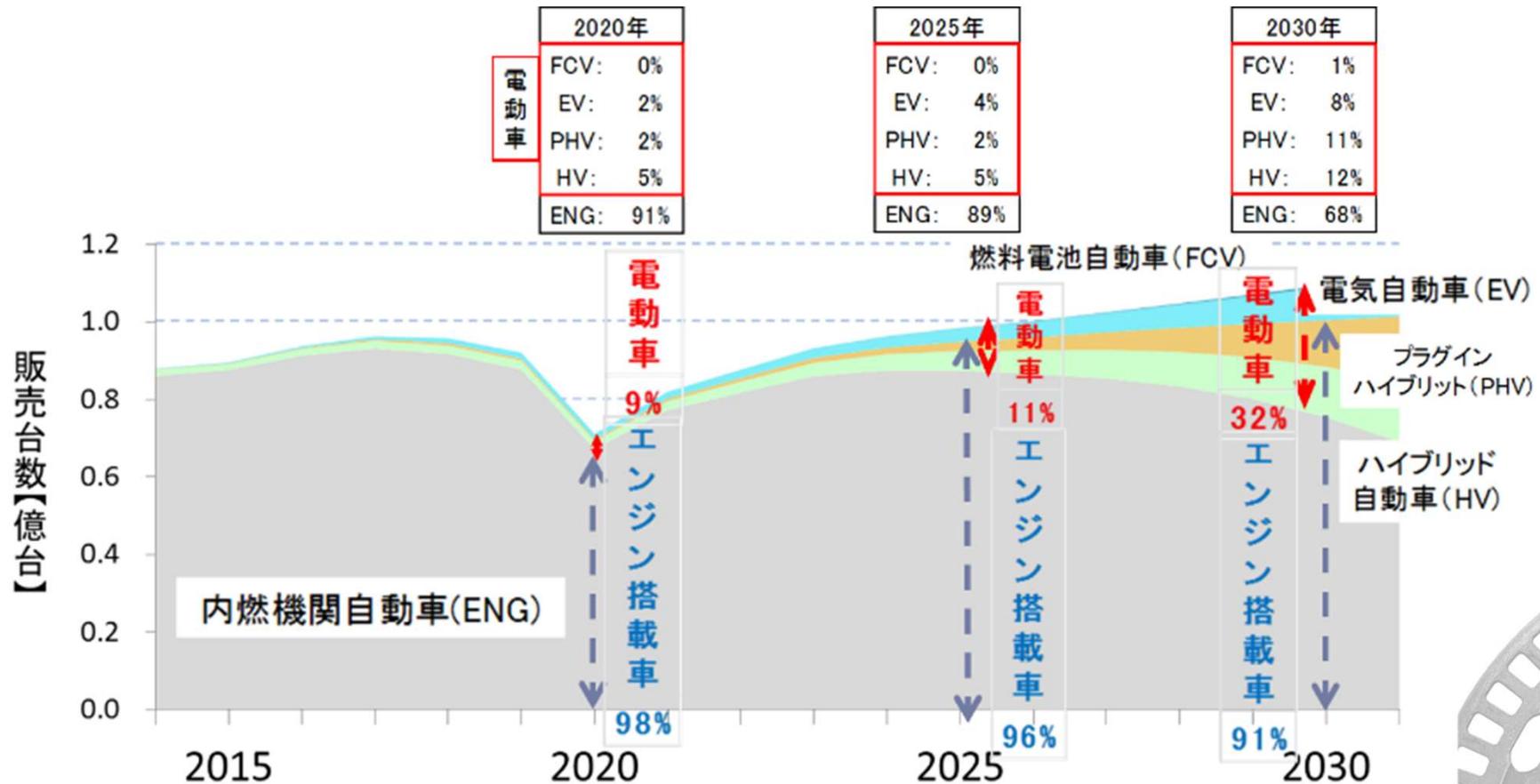
中長期の成長戦略 GGP21 (Global Growth Plan 2021)

市場動向：グローバルエンジントレンド<After COVID-19>

【Data Source : FOURIN & Marlines】

HV・PHV主体に自動車電動化は進んで行く

	2020年	2030年
エンジン非搭載車率	2%	9%
HV・PHV含むエンジン搭載車率	98%	91%

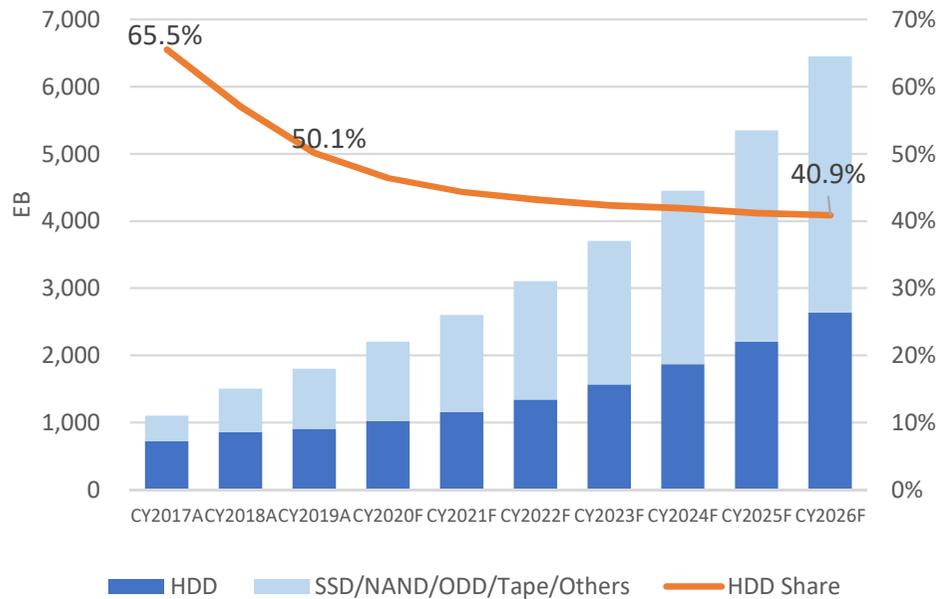


データストレージ及びHDD需要予測

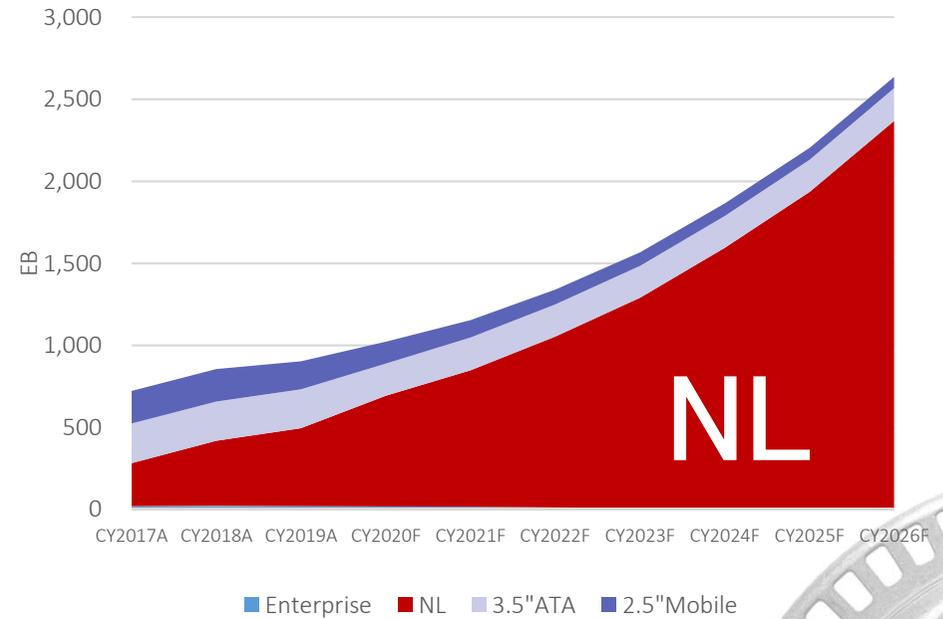
クラウドストレージストレージ容量需要の爆発的な伸びに対して、
ニアライン向けHDDの需要は今後も増加する。

1. クラウドストレージの世界市場はCovid-19の発生によって爆発的な成長が見込まれる。
2. データの保存や処理のサービスはデータセンターで一元管理され、大容量のストレージが必要となる。

データストレージの容量需要



HDDの容量需要



NL

- EB (エクサバイト) 情報量を表す単位。1 EBは1,000,000,000,000,000,000バイト。
- 出所：テクノサーチシステム

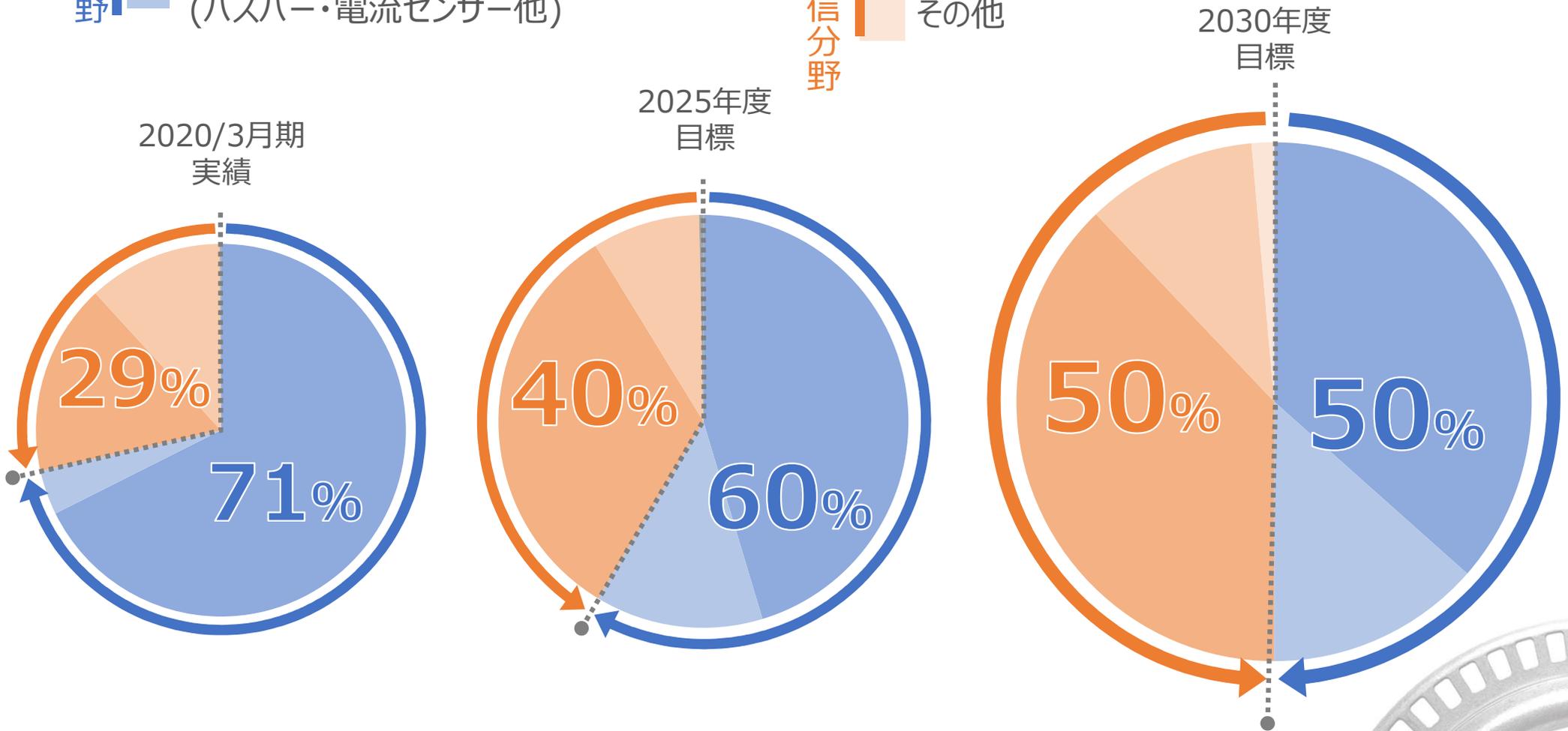
勝ち残る為の事業セグメント将来像

自動車分野

- 既存製品
(弁ばね・弁ばね用Wire・リングギヤ他)
- 新規EV・HV関連製品
(バスバー・電流センサー他)

電子情報通信分野

- HDD用サスペンション
- 光関連・プリンター関連
- その他



売上高占有率推移（予測）



サンコールの重点戦略と成長戦略

1. コア事業における高需要分野への継続投資

自動車市場のグローバルトレンド

2. 次世代主力事業の育成と深耕

CASE対応～『電動化“E”』に注力
電流センサーの事業化

3. 成長性の高い分野への経営資源の投入

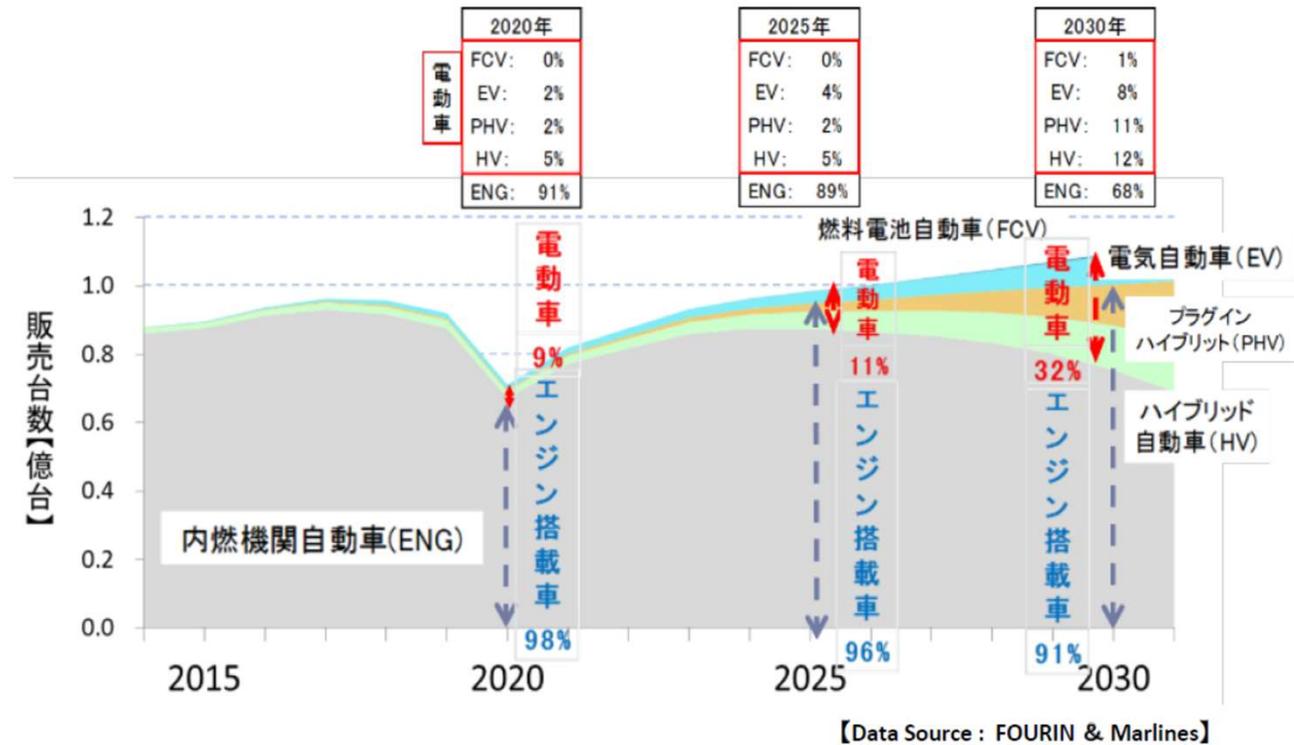
サスペンション事業は高い成長が見込めるニアライン向けHDDに特化
ニアライン向けサスペンションに投資を集中

4. 新規事業 新規戦略への経営資源の投入

自動車市場のグローバルトレンド

弁ばね等エンジン・
駆動系製品

エンジン搭載車動向の注視



- 自動車市場のグローバルトレンドは2022年にかけてコロナ前に回復 その後緩やかな成長
- エンジン搭載車（弁ばね搭載車）は、2030年でも91%（含むPHV/HV）

CASE対応～『電動化"E"』に注力

CASE(ケース) とは

- Connected (インターネットとの接続)
- Autonomous (自動運転)
- Shared & Services (シェアリング)
- Electric (電動化)

電流センサー次世代開発製品

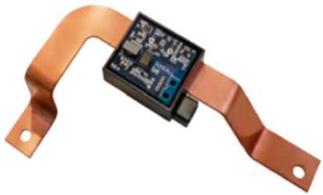
電流センサー



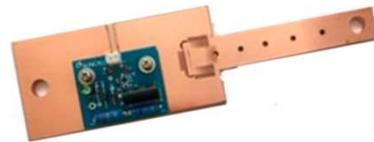
バスバー



シャントオンバスバー

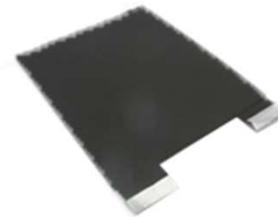


回路付き
シャントセンサー



ヒューズセンサー

次世代開発製品



活性炭キャパシタ



耐熱コイル

- 当社素子ボンディング技術の活用
- 放熱特性に優れる
- 量産評価中

電装機器向け
構成部品

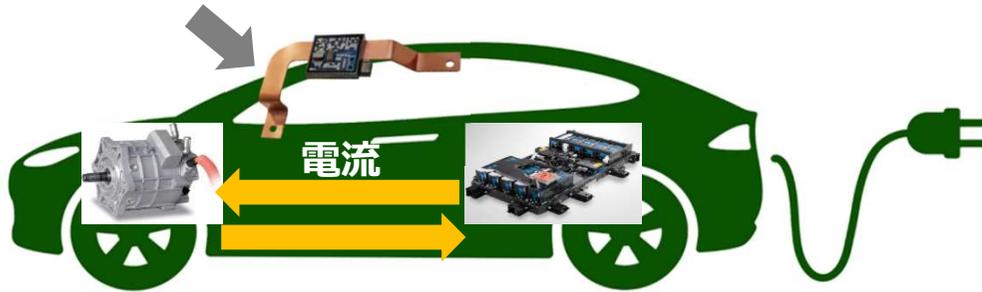
電流センサーの事業化

ワールドワイドで顧客ニーズに合わせた製品開発により事業規模拡大中

シャントセンサーの採用は徐々に増加

シャントセンサー

用途: 電流の監視 / 異常検出 / 電流コントロール



HVトラック用途量産開始

(2019年12月～)



自動搬送装置用途

(2020年1月～)

Withコロナ時代
宅配ビジネス・無人倉庫の拡大



電動フォークリフト用途 量産開始

(2017年4月～)

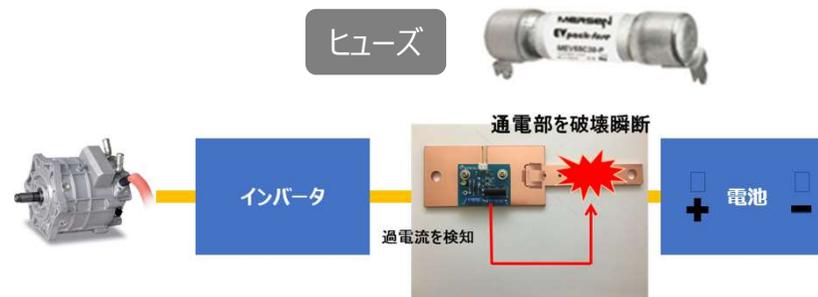


太陽発電用途量産開始

(2020年4月～)

ヒューズセンサー

通常はセンサーとして電流を監視し、異常検出時は通電部を破壊して過電流による事故を防止する

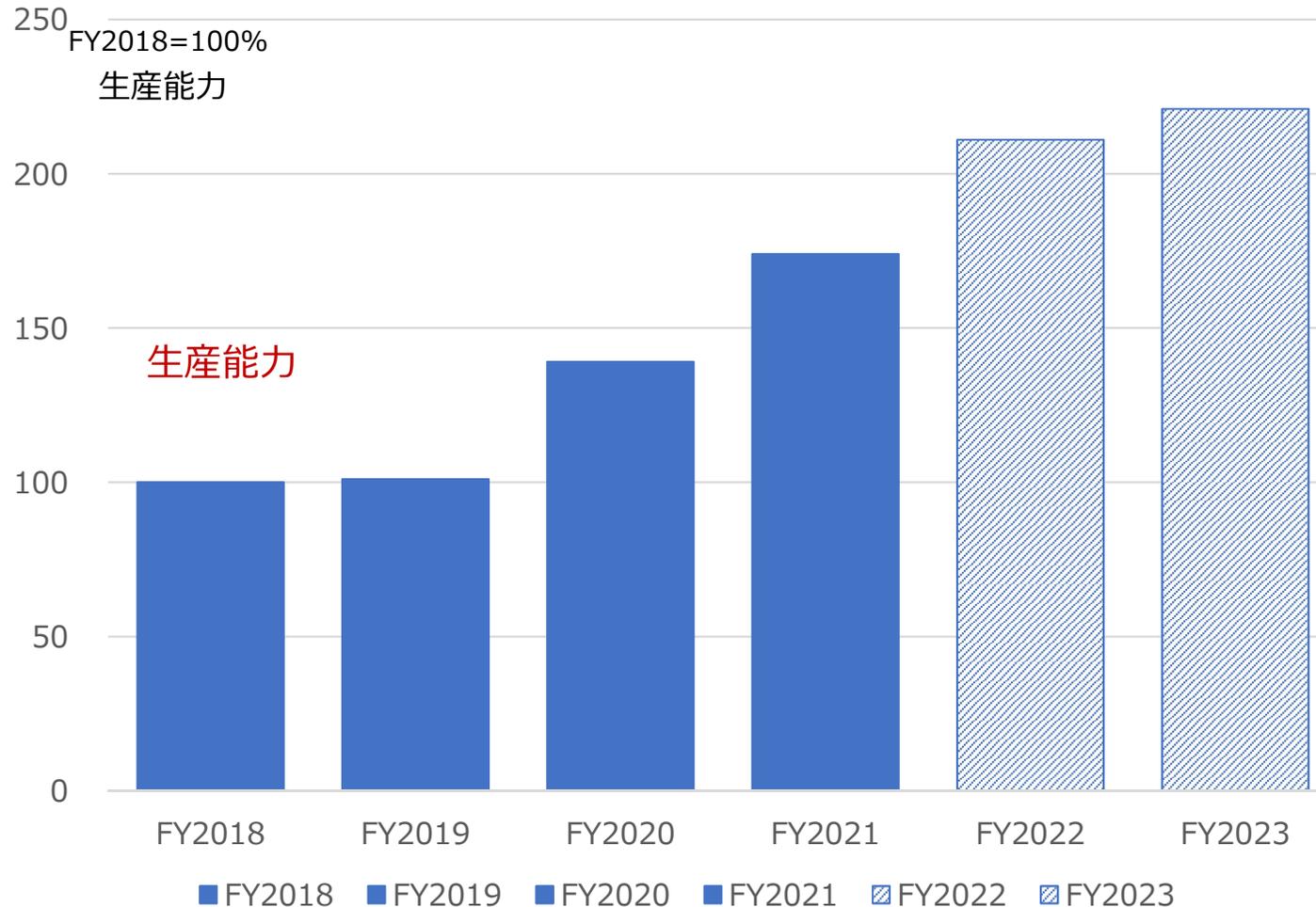


ニアライン向けサスペンションに投資を集中

POINT

- ニアラインドライブの高需要に応えるべくサスペンションの生産能力増強に注力
- 生産能力は現状の2倍強を計画

ニアラインドライブ用サスペンションの当社生産能力計画



新規事業 新規戦略への経営資源の投入



コア事業である自動車分野の増産体制構築

- 昨年国内子会社のサンコールエンジニアリング（山梨県南アルプス市）とサンコール菊池（熊本県菊池市）の工場建屋を増設
⇒SBW（シフト・バイ・ワイヤー）システムに搭載されるモーターコア及びVVT機構に使用されるぜんまい等の増産対応に注力
- 2021年当社広瀬工場（愛知県豊田市）の工場建屋増設予定
⇒今後EV車で採用拡大が見込める高精度長尺バスバーの生産対応



加速する環境車導入への対応

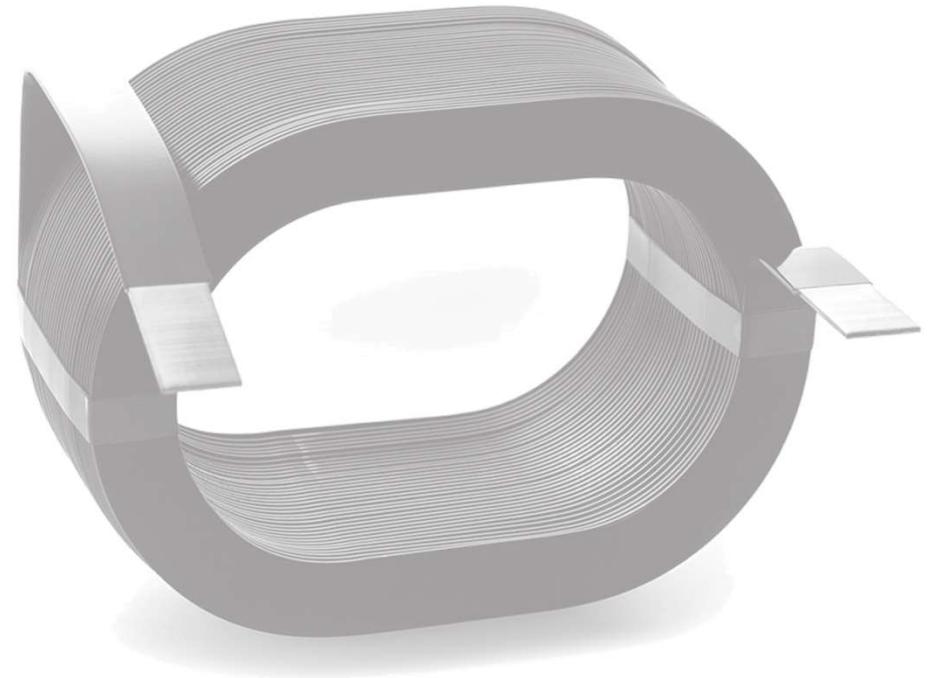
- 中国のNEV政策にHVがエコカーとして優遇策に採用。中国政府は2035年にすべて環境車へ
⇒2022年国産メーカーの量産型ハイブリッド車に当社高強度新製品（弁ばね）の採用が決定
⇒CASE対応など、EV化の加速へ注力（シャントセンサー、バスバー他）



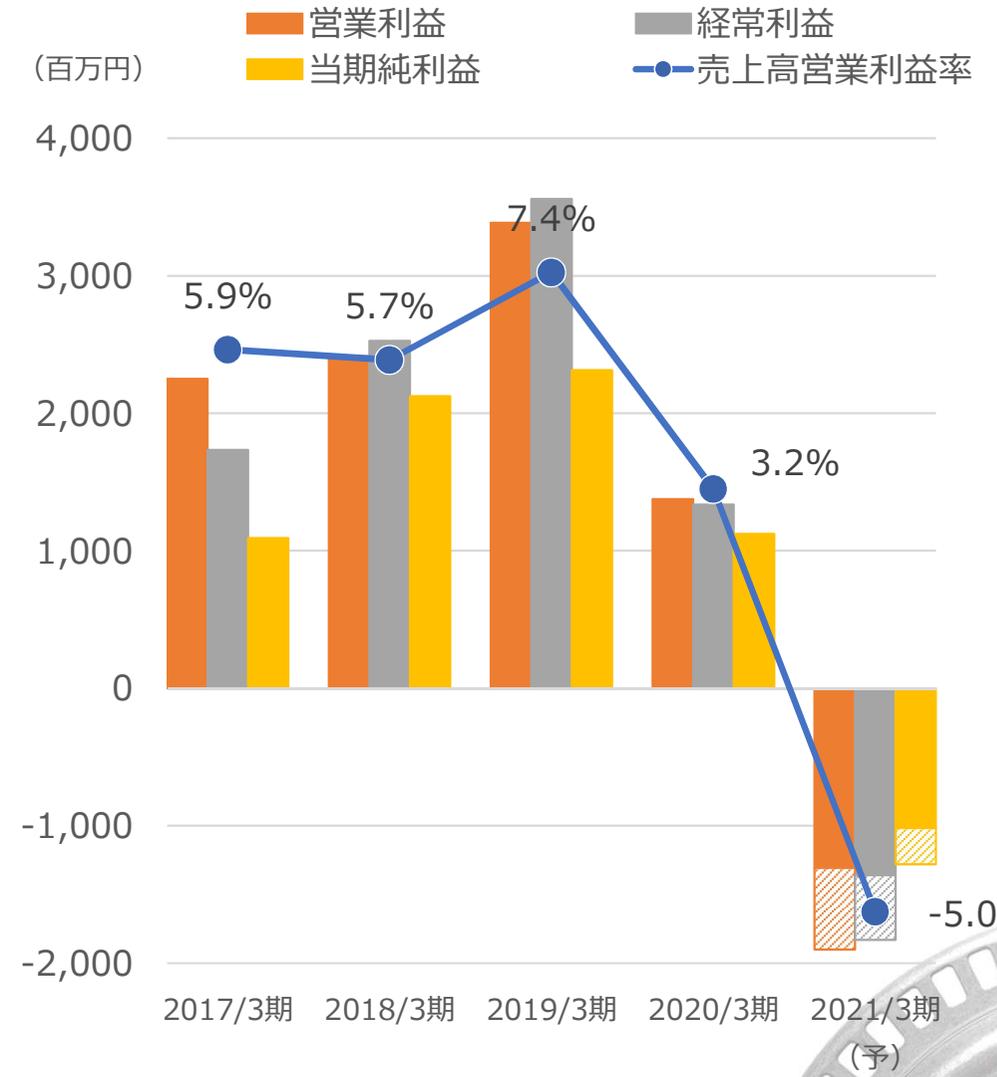
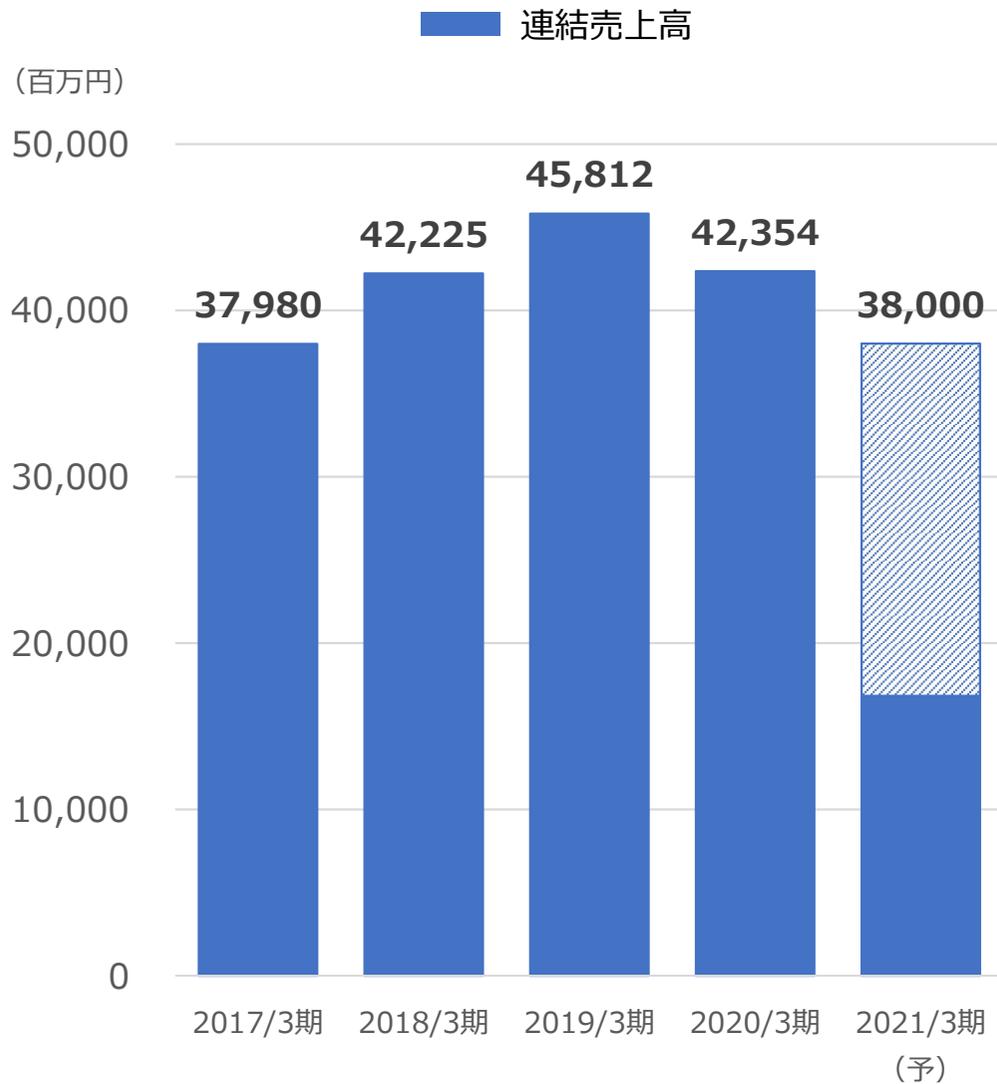
医療介護事業の推進

- 京都大学等と共同研究開発を進めてきた歩行学習支援ロボット「Orthobot（オルソボット）」は既に国内数か所のリハビリテーション施設で採用され使用開始
- 従来のロボットと比較して装着の手間が少なく、複雑な設定の必要がない
- 初年度30台、将来的に年間300台の販売規模を目指す

補足



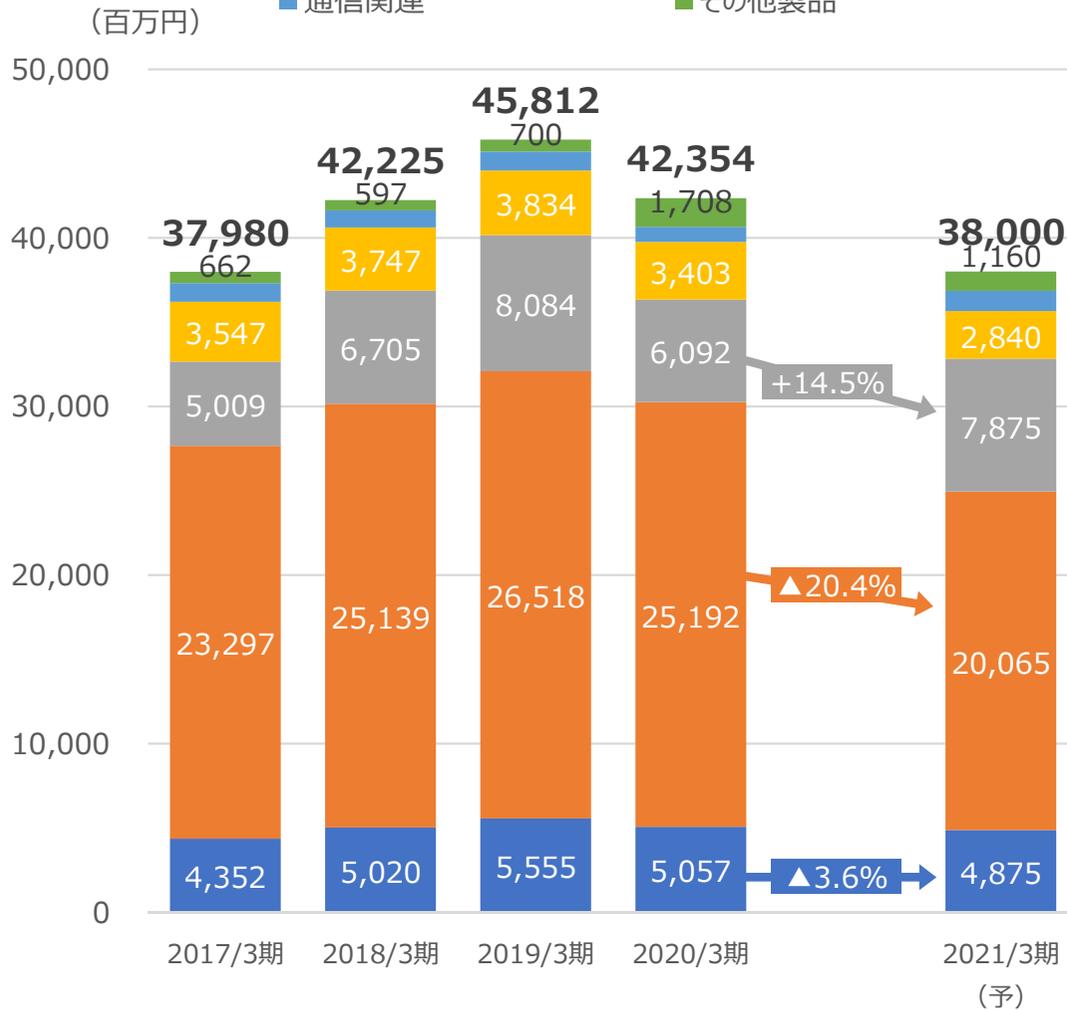
業績推移



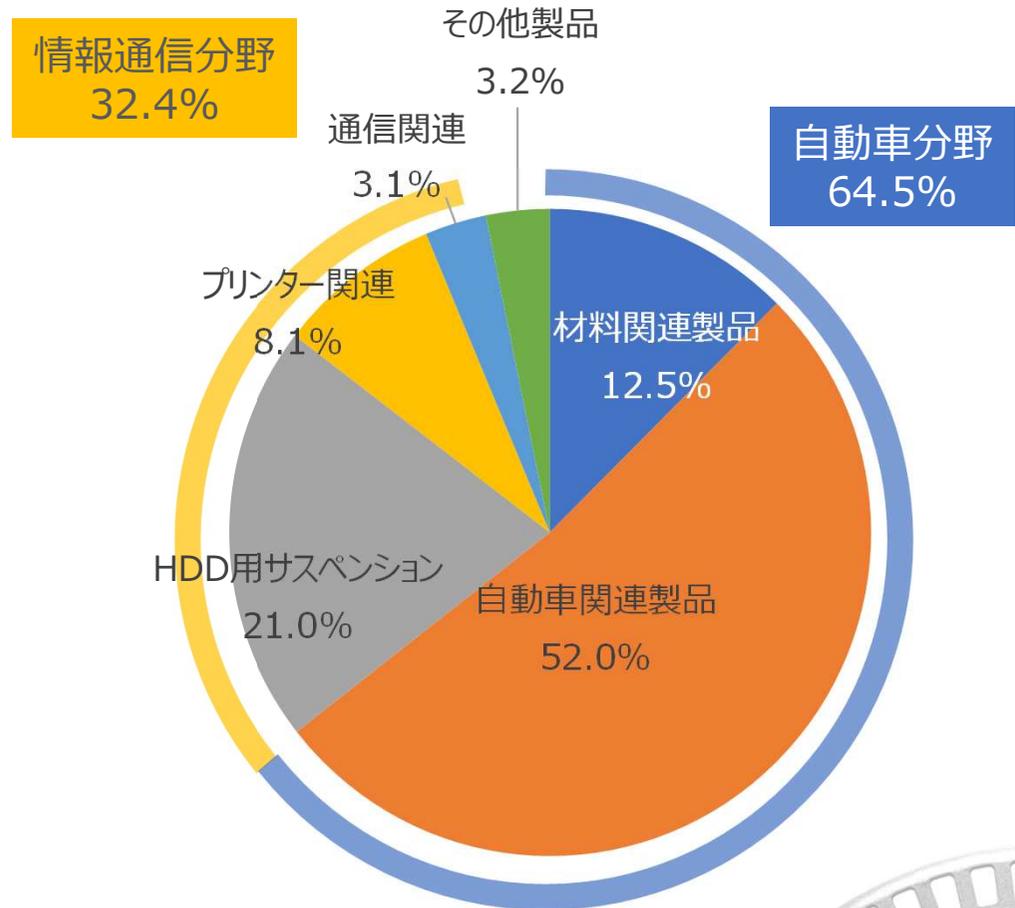
製品区分別売上推移

製品区分別連結売上高の推移

- 材料関連製品
- 自動車関連製品
- HDD用サスペンション
- プリンター関連
- 通信関連
- その他製品

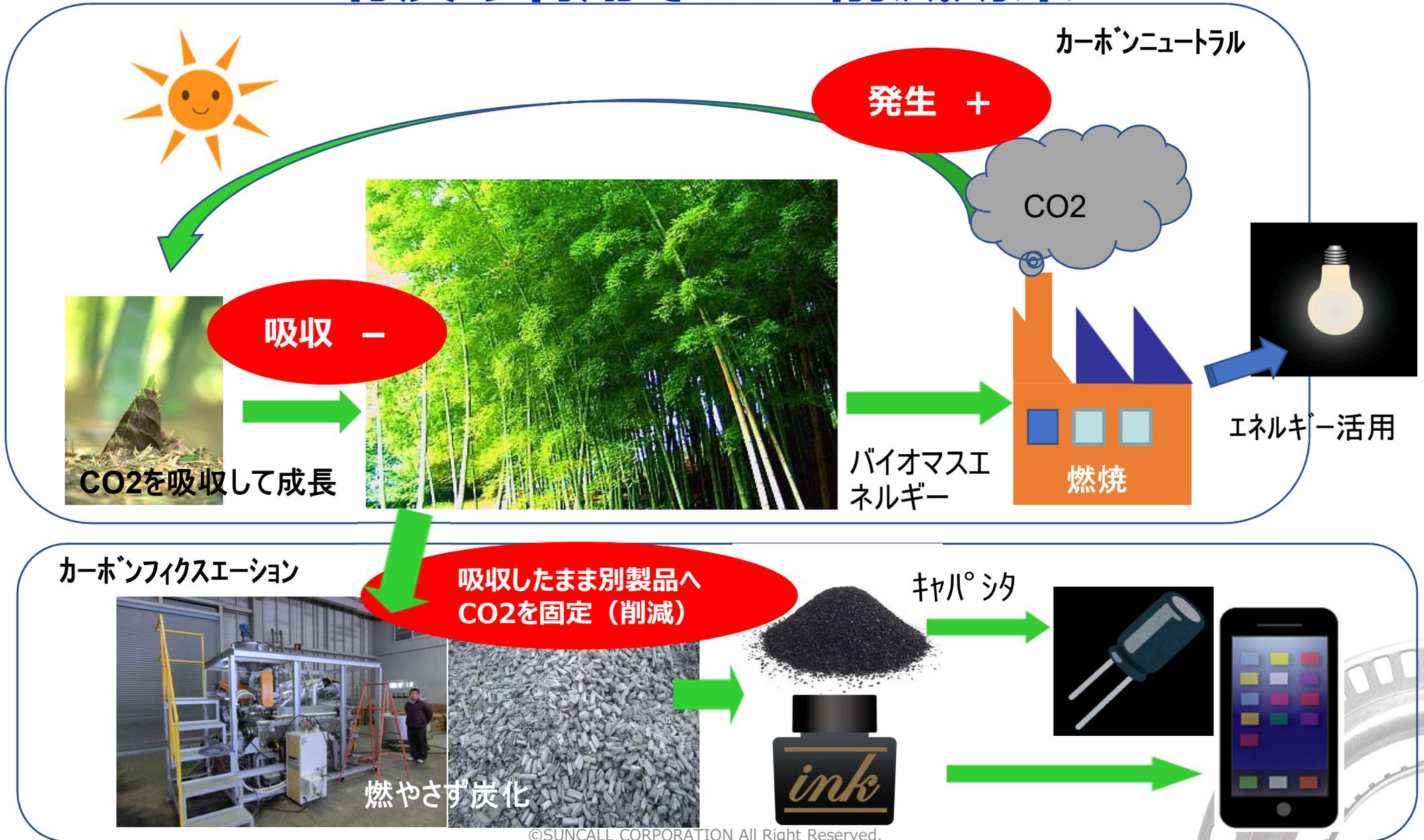


製品区分別連結売上高構成比 (2021/2Q)



トピックス 活性炭キャパシタの開発 (環境に優しい製造方法)

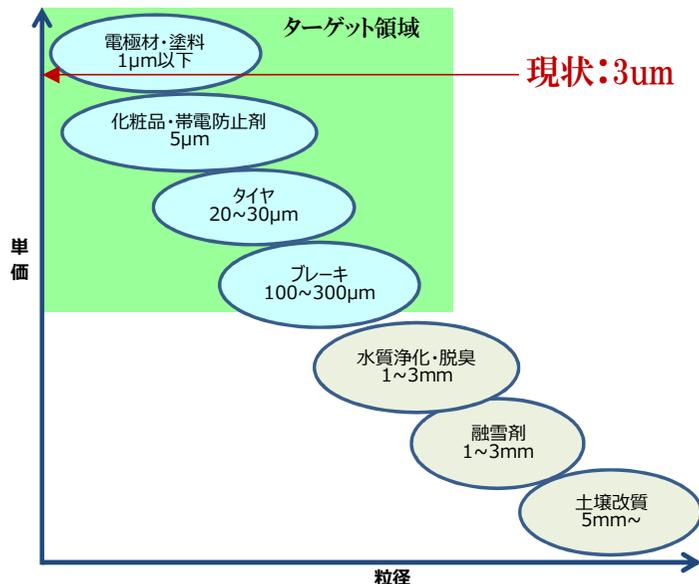
竹炭の利用でCO2削減効果



トピックス 活性炭キャパシタの開発 (環境に優しい製造方法)

歩行訓練支援機向けでは実用化に目処、 自動車向け参入を目指す

- 入手容易で安価な竹が原材料
- 放置竹林対策として自治体と協力
- CO₂排出量の少ない加熱水蒸気炉を活用して活性炭に加工



竹炭で蓄電装置参入

竹の活性炭を使ったキャパシタの搭載を予定する
同社の歩行訓練支援機

サンコールが開発する竹の活性炭を使ったキャパシタの電極(同社提供)

サンコール、宮津の放置竹林活用

サンコールは、自社製の竹炭を用いたキャパシタ(蓄電装置)事業に参入する。宮津市産の竹を活用する取り組み。小型軽量化が可能で短時間での充電に早く特徴を生かし、まずは3年以内に同社の歩行訓練支援機に搭載し、事業化を進める。

歩行訓練支援機 搭載へ

キャパシタの素材としても優れており、実用化に向け開発を進めてきた。

同社は、エンジンの弁ばねなど自動車部品を主力としていて、自動車の電動化を見据えながら新事業の開拓を進めている。すでに医療・介護分野向けに歩行訓練支援機を発売しており、3年以内をめどに電源として竹炭を用いたキャパシタを搭載する。

リチウムイオン電池と比較し、キャパシタは蓄電容量が少ない一方、短時間での充電に優れる。蓄電に化学反応を伴わないため安全性が高く、軽いため、訓練支援機や医療や介護現場での使用に向いているという。

大谷忠雄社長は「安価で安全なキャパシタの需要は多いはずだ。自社製品への搭載を皮切りに、蓄電部品事業に参入したい」と話す。(江夏順平)

2019年8月21日付 京都新聞掲載
京都新聞社よりご提供
無断複製・転載禁止

トピックス 歩行学習支援ロボット「Orthobot」を発売

「今使っている装具がロボットに変わる」 リハビリ支援ロボット

- 京都大学のCOI(Center of Innovation)において共同開発
- 脳卒中後の歩行リハビリを補助する装着型アシストロボット
- 歩行リハビリで使用するKAFO(長下肢装具)にアドオンすることで、KAFOが最新のリハビリ用ロボットに変化
- 市場を開拓し、主力事業へ育成



トピックス 歩行学習支援ロボット「Orthobot」を発売

Orthobot (オルソボット)の特長

- ✓ 左右共用のため初期導入コストを抑えることができる
- ✓ 歩行介助の負担が小さく済み、省人化できる
- ✓ 動作プログラムが組み込み済みで直ぐに使用可能
- ✓ 通常の歩行訓練場所での運用が可能
- ✓ 軽量で装着性よく使用者に負担を与えない
- ✓ 使用者にメカ的な恐怖感を与えない革を使ったデザイン

・脳卒中後のリハビリ／・歩行学習支援



2020年3月上市

使用者のメリット

- 装着時間が短く短時間でトレーニングが可能
- 理学療法士が少ない地方でもトレーニングが可能

導入側のメリット

- 初期投資費用が小さい
- 特別な設置場所が不要
- 装着時間が短く大人数を効率よくトレーニング可能
- 人件費節約

理学療法士のメリット

- 肉体疲労の軽減
- 1人でもトレーニング可能

【ご注意】

本日の説明資料には、当社の事業に関する業績見通し、将来の計画・方針等に関する記述が含まれていますので、株券等の取引を行う際には、金融商品取引法その他の法令の遵守をお願い申し上げます。また、将来予想は、現時点で入手できる情報に基づき作成しており、既知または未知のリスク・不確実な要因等を含んでいるため、当社の実際の業績、事業活動や財政状態が、将来予想の内容と大きく異なる場合がありますが、そのような場合であっても当社は、将来予想の内容を更新または修正して公表・開示する責任を負うものではありません。